

ブドウ (Campbell Early) の台木に関する研究

(第1報) 生育量および収量におよぼす影響

浜地 文雄・森田 彰・角 利昭

(福岡県園芸試験場)

HAMACHI, F., MORITA, A. and SUMI, T.

Studies on the Stock of Campbell Early Grape

(1) The effect of the stock on growth and yield

ブドウの台木に関する報告は多数あるが、同じ台木の種類であっても穂木の種類が異なればその影響は違つて現われ、また同じ台木と穂木の組合せであっても樹勢や樹令・土壤条件、栽培条件が変われば、その影響が違つて現われる。花崗岩砂壤土における Campbell Early の適応台木を選抜するため 1958年から 5 品種の台木を用いて各種調査を行っているが、その結果の一部を報告する。

材料および方法

供試品種 (穂木) Campbell Early

(台木) Hybrid Franc, Riparia×Rupestris No.3309  
Berlandieri×Riparia Teleki No. 8 B, Berlandieri×

Riparia Teleki Select Kobel No. 5BB Berlandieri  
×Riparia No. 420-A

栽植前樹列を深さ 1 m, 巾 1.5 m の条溝に深耕し、深耕土量 1 m<sup>3</sup> 当り乾燥そだ 18 kg, 都市塵芥 30 kg, 苦土石灰 1 kg, 消石灰 1 kg, 熔性磷肥 1 kg を埋込んだ栽植後は同様な方法で 3 ヶ年深耕した。苗木は舌接苗を用い 10 a 当り 13 本植とし、双方二分整枝、短梢せん定を行なった。

試験結果

生育量は Franc が最も旺盛でこれに次いで 8 B, 5 B B, 420 A, 3309 の順となつた。

第1表 台木品種が Campbell Early の生育・収量・品質に及ぼす影響

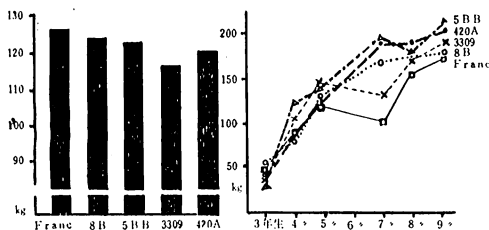
品 種	樹勢	幹周 (台/穂)	枝の登熟度	伸長停止期		開 花 期		花振り度	1本当り累年収量	秀果率
				月 日	月 日	月 日	月 日			
Franc	強	1.08	+	11. 4	5. 16~5. 26	+++	663.3	68.2		
8 B	やや強	0.97	++	10. 22	5. 16~5. 25	++	720.4	78.5		
5 B B	中	0.96	+++	9. 23	5. 15~5. 26	++	923.1	80.2		
3 3 0 9	中	0.95	++	10. 14	5. 17~5. 26	+++	750.3	78.1		
4 2 0 A	中	1.12	++++	8. 26	5. 17~5. 27	++	874.4	84.8		

品 種	一 房 重	一果粒重	果粉着生度	着色指数	糖 度	酒石酸含量	旨味比
Franc	287.6	4.13	++	2.9	14.1	1,072	13.1
8 B	294.3	4.38	++++	3.1	13.5	1,042	12.9
5 B B	291.4	5.06	++++	3.8	15.3	0.976	15.6
3 3 0 9	305.7	4.58	+++	3.2	14.6	1.023	14.2
4 2 0 A	298.0	5.02	+++	3.6	14.9	0.972	15.3

幹周、枝の登熟度、開花期、花振り度、果粉着生度、着色指数、酒石酸含量は1966年調査。  
伸長停止期は1960年調査

第1図 累年剪定量 (1本当り) 第2図 収量の推移



累年剪定量を示すと第1図の通りであつた。なお Franc, 8 B, 3309は伸長停止期がおそく二次伸長の

傾向が強かつた。台負けは植付 5 年目から 8 B, 3309 5 B B に表われ、Franc, 420 A は台勝ちとなつた。

収量は 5 B B が最も多く次いで 420 A, 3309, Franc, 8 B の順で、秀果率は 420 A が最も高く、ついで 5 B B, 8 B, 3309 の順となり Franc が最も劣つた。収量の推移を見ると 420 A が最も安定した曲線を示し、次いで 5 B B, 8 B の順で Franc, 3309 はかなり不安定であつた。

着色・品質は 5 B B, 420 A がよくこれについて 8 B, Franc となり、3309 が最も悪かつた。以上の結果から 5 B B, 420 A が台木として優れている。